令和7年度　学校評価

2026年1月31日

木更津総合高等学校
就職指導部　寺岡 和貴

点検・評価項目	分掌内評価 3 優れている 2 適切 1 改善が必要	点検・評価項目の総括	今年度の傾向、特記事項
各事業(人事部)と木更津公共職業安定所との連携等	3	**・求人状況：**求人数は昨年度に引き続き増加傾向にある。生徒一人につき約4.8件の求人がある。本校には2,000枚以上の求人票が届けられている。特定の業種・職種（特に現場作業）では職場見学を希望する生徒が少ない・いないという状況が発生している。 **・オンライン求人票：**2022年度より導入した「HANDY進路指導室」の活用により学校での求人票検索だけでなく、生徒が自宅で家族と検討できるよう配慮してある。今年度からバーコード求人票登録機能が導入されより便利になった。 **・夏期講習：**7月28、29、30、31日に実施した夏期講習では、一般常識・SPI、作文、面接、PCスキル等、採用試験で内定につながる効果の期待できる分野に焦点を絞り実施した。 **・面接指導：**採用試験において面接は必須であり、6月の模擬面接、7，8月の夏期講習、9月の面接練習において面接指導を多数実施した。1人最低3人の教員に指導してもらうよう促した。	**・求職状況：**経済的・学力的に進学しやすくなり、就職希望者は減少傾向にある。今年度は**全内定生徒134名**（男子:73名、女子61名、1月31日時点、昨年度122名）であった。内訳としては職業安定所紹介の求人票によるものが105名(男子:50名、女子55名)、縁故就職が12名(男子:7名、女子:5名)、公務員が15名(男子:15名)であった。9月16日より全国一斉に就職採用試験が開始され、自分の第一希望の企業に合格するよう全力で準備に取り組む姿が多数確認できている。採用試験では一般教養、SPIなどの学力試験を通過できない生徒が例年以上に目立った。今後の課題としたい。 **・オンライン求人票：**掲載した求人票の数はHANDYに2,898件登録を行った。家族でオンライン求人票を閲覧し、就職指導室に相談に来る生徒も目立った。 **・夏期講習：**88名の生徒(一般企業72名、公務員16名)が参加し、今年度は欠席者があまり目立つことなく4日間熱心に受講した。就職指導部教員12名が講師を担当し、専門分野を中心に指導してくれた。 **・面接指導：**6月に実施した模擬面接は87名が参加した。就職指導部の教員の協力もあり本番を想定した緊張した雰囲気作りがしっかりとでき充実した面接指導になった。また夏期講習での集団面接練習を経て、9月16日から始まる採用試験に向けて現在は個人面接練習を中心に実施している。
公務員指導	3	公務員の採用枠は例年どおり多くはない。一次試験は9月に実施される。国家が9月7日、地方が9月21日、県や県庁所在地の試験は9月28日に実施される。必ず学力試験が課され、それを通過しなければ10月から実施される面接やプレゼンテーション、グループワーク試験に進めない。そのため9月までは学力試験通過のための対策が主な指導となる。生徒は放課後講座や夏期講習、清和大学での講座などに参加することで実力を高めている。	公務員合格数は19であり(内定者数15名、昨年度合格7名)、その内訳は国家(農林水産省 本庁)1、千葉県職員2、川口市一般行政1、市原市一般行政1、木更津市消防本部1、市原市消防本部1、千葉県警察官3、警視庁1、自衛隊9である。放課後公務員講座参加者は6名、夏期講習参加者は16名、清和大学での講座(7月19、8月24日実施)への参加者は部活動の試合の関係で4名に留まった。公務員希望者は昨年度よりも学力向上へのモチベーションが高く、6月までの地道な学習が実り、7月から模試の成績の上昇が目立った。主な理由として放課後講座、夏期講習、清和大学での講座などで１つ１つ地道に弱点を克服し、合格基準点に到達したことが考えられる。7月より模擬試験の機会を増やし、本番での雰囲気に慣れ2時間近くの集中力を維持できるよう最終調整した。
インターンシップ	3	4月から6月まで実施し、主な実習先は製造業(日本製鉄のパートナー会社やJFE関連企業など）、販売職（イオンモールやアウトレット）、建築業、ゴルフ場・ホテルなどのサービス業、イベント業、美容業、保育園、警察、消防、自衛隊、木更津市役所などである。また文化祭期間にはシミズオクト主催のメインステージ設営インターンシップも実施し、22名が参加した。	今年度は依頼した団体数65、そのうち実施した47、参加生徒は173名(前年度151名)であった。自分の進路を考慮し、就職希望生徒だけでなく進学希望生徒も積極的に参加した。特に木更津市役所では生徒の希望する課をそれぞれ体験させてもらった。また前年度の反省を生かし、事前準備を徹底したため、今年度は比較的良い評価が目立った。インターンシップを経て自分の進路を決めた生徒も比較的多く見受けられた。
受付実践	3	平日２，３校時に実施。来客対応、お茶出しや郵便物を各教員への配布などの業務を通じてビジネスマナーや敬語を学ぶ。生徒は１日つき１人のみ実践し、指導教員との濃密な時間を通じていずれは就職するための心構えと素養を身につける。	今年度は第３学年女子21名が実践に参加。6月15日より開始し、一人ひとりが緊張の中、慣れない手付きでお茶出しや来客対応、郵便物の配布を実践中である。来校者は皆、このような実践は非常に珍しく、生徒が緊張する中で真剣に取り組む姿を微笑ましく見守り高い評価をしてくれていた。
その他	2	①原則として生徒は希望した企業の試験を受けられるが、現実問題として生徒の適性や能力を考慮した場合、内定が困難な場合もある。引き続き理想と現実のギャップを埋める指導の努力が必要である。 ②今年度は特に生徒の就職に対する意識やモティベーションを上げることに苦労していた。 ③欠席15日以上生徒の対応について：高校在学中に欠席過多の生徒は入社後も欠勤が多い傾向があり、在学中の欠席を減らすことは内定率上昇につながる。 ④ビジネスマナー教育について：採用試験合格後の学校での過ごし方を中心に、将来社会人になった後、法の遵守はもちろん、企業のルールや社会人としてのマナーを守れる人物に育成する。	①生徒の家族や知人、または就職指導部以外の教員が善意で特定企業を生徒に紹介してくれることがある。しかし時に生徒の適性や能力を考慮しないで難易度の高い企業を勧めることもある。今後は生徒本人の意志を考慮し、家族や指導部以外の教員とも連絡を密にしてこの問題を解消していきたい。 ②自主的に行動のできる生徒が減少したため、指導部から声をかけているが、アルバイトやその他の予定を理由に、放課後に就職指導室で相談を受ける生徒が減少した感がある。 ③原則9月の採用試験受験はできないが、企業からの要請により特例として受験をする生徒も発生した。ペナルティで受験時期を遅らせるのではなく、生徒が就職を学業へのモティベーションにし、生徒の欠席遅刻早退を減らす指導案としてより深く煮詰めて改善をする必要がある。 ④入社後の卒業生が、研修期間中にマナーや社会のルールを遵守できず企業に迷惑をかける事例が発生した。企業との信頼関係や卒業生自身の将来のためにも、卒業前に複数回、社会人として常識やマナー、ルールなどを再確認させる研修を実施した。